

授業改善プラン 2年

	児童の実態と課題	取り組みの重点	授業改善の成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く姿勢を持続できない、話の内容をつかむことが苦手な児童がいる。 ・句読点を打つ、かぎかっこを付ける、文体に留意して書くこと等ができない児童がいる。 ・文脈に即して内容を読み取ることが苦手な児童がいる。 ・カタカナと漢字が定着しておらず、正しく書くことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物などを活用しながら、聞く姿勢を意識させ、身に付くように個別にも声をかける。 ・活動内容（特に「聞く」場面であること）を明確に指示し、姿勢を整わせる時間を取る。 ・繰り返し全体指導する。 ・文を書くことについて、丁寧に指導し、時系列に各方法や考えや経験を書く方法を身に付けさせる。 ・ノートや原稿用紙を活用し、マスや行を常に意識させる。 ・根拠となる部分に線を引いたり書き抜いたりする活動を通して、文脈に即して読む経験を積ませる。 ・根拠を示しながら、登場人物の気持ち等を考えさせる。 ・家庭学習とミニテストで繰り返し練習させ、定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物などの視覚的情報により今何をすべきなのかを認識し、児童同士でも聞く姿勢を意識しあうことができるようになってきた。 ・ICTを活用し、教師も同じ体裁（ノート・ワークシート・教科書）で例文やしるしを書きながら提示することで書き方を身に付けることができた。苦手な児童には真似をしていいことを伝え、文を書くということに慣れさせることが重要であると考えている。 ・日々の家庭学習により、漢字やカタカナの定着が向上してきた。また、集めたプリントなどもチェックをし、間違っているものには赤を入れることで次回以降の間違いの軽減につながっている。

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・1位数+1位数、2位数-1位数の計算を暗唱できない児童がいる。 ・文章題を読み取れない、式の意味を理解できないことで、立式できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校算数や家庭学習、学期末の検定等で反復練習し、計算能力を高めていく。 ・身近な題材を取り入れ、単元を通して学習課題の場面や用語を統一することで、理解を深める。 ・日常的に文と式と図の関連性を指導することで、多角的に問題に取り組むことができるようにする。 ・全校算数や家庭学習等で、文章題に取り組む機会を増やし、問題をよく読むよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習により、計算能力は高まっているが、個人差が大きくなっている。 ・使う用語を統一したり、日常的に文と式と図を関連付けて指導したりすることで、式の意味を理解し文章題を読み取ることができる児童が増えた。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・活動したことを絵や文にまとめることができるが、観察の視点が少なく、表現が乏しい児童もいる。 ・学級園の畑やビオトープ、校庭、公園など、自然に親しむ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「かんさつ名人になろう」「こんなこと、見つけたよ」の指導と合わせ、観察の視点到に広がりをもたせる。観察の回数を重ねる。観察カードに視点を記しておく。 ・活動後には、振り返りの時間を設定し、カードに書いたり発表し合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察やインタビューなど、回数を重ねることで、絵や文にまとめることができる児童が増えた。表現や気付きが乏しい児童には、個別に支援が必要である。 ・振り返りの時間を設定したことで、新たな視点への考えが深まり、次への意欲が高まった。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現、鑑賞ともに意欲的に取り組んでいる。 ・鍵盤ハーモニカの基本的な技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の声を聴きながら歌ったり、友達と聴き合ったりしながら歌う学習をたくさん取り入れる。 ・歌唱は、頭声的発声を取り入れながら無理のない歌い方を目指していく。 ・運指やタンギングを中心に様々な奏法を定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の声や音を聴く意識は高まっており、より良い音を追求する姿も多く見られる。周りの声や音への意識は引き続き指導していく。 ・高音の楽曲では、頭声的発声もできるようになってきた。切り替えの差がなくなるように指導していく。 ・指づかいの様々な技術が身に付いてきている。応用として、旋律に合った指づかいを各自で工夫できるようにする。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が思った事や感じたことを絵や立体作品に表現する事ができる。造形活動に興味、関心をもって、楽しく意欲的に取り組むことができる。 ・鑑賞では、さまざまな作品に興味をもって楽しく観ることができ、友達の作品も関心をもって鑑賞する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じた事や思った事を絵や立体に楽しく表現する事ができるようにする。 ・興味深く鑑賞できる絵画作品や造形作品を紹介する。児童が描いたり、作ったりしたものに興味をもち、互いに楽しく作品を観る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じたことや思ったこと、作品の完成予想図を制作前にイメージすることにより、絵や立体作品などを楽しく表現することが出来た ・表現活動に入りにくい、個別の支援を必要とする児童には、個別に児童と接し、楽しくアドバイスして、児童の造形への興味、関心を引き出すことができた。 ・展覧会で友達や他学年の作品を鑑賞して、互いのよさに気づき、次の制作へのヒントが生まれ制作への意欲に繋がった。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで作戦を工夫したり、個人で運動の方法を工夫したりするなどの経験が不足している。また、集団に入っ て意見が言えない児童もいる。 ・運動の技能には、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦カードやホワイトボードなどを用いて、チームで話し合う経験を積ませる。 ・小グループでチームを作ることで、意見を言いやすい環境をつくる。 ・日頃から体を動かす機会を十分にとり、様々な動きを経験させていく。 ・学習カードを用いて、個人のためあてや工夫、振り返りを書かせることで、段階的に指導し、技能を高める。 ・気付いたことを、全体の場で共有する時間をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦カードを用いたり、小グループでチームを作ったりすることで、作戦や運動の方法を話し合ったり協力したりすることができた。話し合いで意見を言うのが苦手な児童もグループの中で「いいね」などの声掛けをすることができた。 ・学習カードを用いることで、児童の振り返りと教師の評価をすることができた。また、児童の意欲も高まった。しかし、学習カードを書く時間の確保が難しい。 ・気付いたことを共有することで新たな視点を得て、考えが深まった。